

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年10月7日(2004.10.7)

【公表番号】特表2000-500755(P2000-500755A)

【公表日】平成12年1月25日(2000.1.25)

【出願番号】特願平9-519332

【国際特許分類第7版】

C 0 7 D 263/14

A 0 1 N 43/76

C 0 7 D 411/12

C 0 7 D 413/12

C 0 7 D 417/12

【F I】

C 0 7 D 263/14

A 0 1 N 43/76

C 0 7 D 411/12

C 0 7 D 413/12 2 1 3

C 0 7 D 413/12 2 6 3

C 0 7 D 413/12 3 0 7

C 0 7 D 413/12 3 1 7

C 0 7 D 413/12 3 1 9

C 0 7 D 413/12 3 3 3

C 0 7 D 413/12 3 3 9

C 0 7 D 417/12 2 6 3

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月1日(2003.9.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成15年9月1日

特許庁長官 今 井 康 夫 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第519332号

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 バイエル・アクチエンゲゼルシャフト

(ほか1名)

3. 代理人

〒107-0052

住所 東京都港区赤坂1丁目9番15号

日本自転車会館

氏名 (6078) 弁理士 小田島 平 吉

(ほか1名)



電話 3585-2256

4. 補正命令の日付 なし

5. 補正の対象

請求の範囲

6. 補正の内容

別紙のとおり



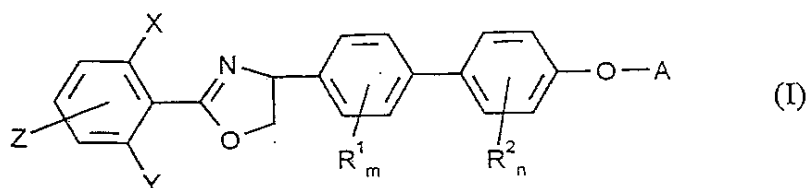
方 式
審 査



(別紙)

請求の範囲

1. 式 (I)



式中、Xは水素、フッ素または塩素を表し、

Yはフッ素、塩素またはメチルを表し、

Zは水素、ハロゲン、アルキル、アルコキシまたはジアルキルアミノを表し、

R¹及びR²は相互に独立してハロゲン、アルキル、アルコキシ、アルキルチオ、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルコキシまたはハロゲノアルキルチオを表し、

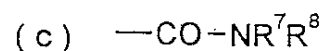
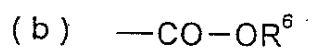
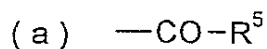
m及びnは相互に独立して0、1または2を表し、そして

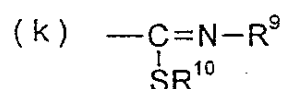
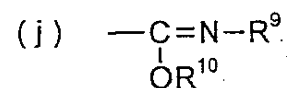
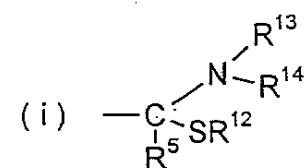
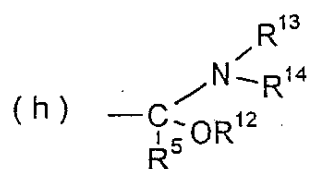
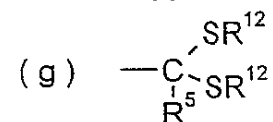
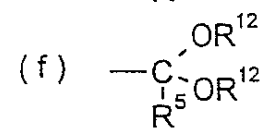
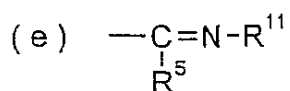
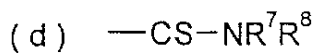
Aは基-(CH₂)_p-(CR³R⁴)_q-(CH₂)_r-Rを表し、ここに

R³及びR⁴は相互に独立して水素またはアルキルを表し、

p、q及びrは相互に独立して0、1、2または3を表し、その際にこれらの記号の少なくとも1つは0以外のものであり、そして

Rはシアノを表すか；随時置換されていてもよい飽和、部分的に飽和もしくは不飽和の5-または6員の複素環式基を表すか、或いは次の基





の1つを表し、ここに

R^5 は水素、アルキル、ハロゲノアルキル、アルケニル、ハロゲノアルケニル、随時置換されていてもよいシクロアルキルまたは随時置換されていてもよいアリールを表し、

R^6 は水素、アルキル、アルケニル、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルケニル、随時置換されていてもよいアリールアルキル或いは随時置換されていてもよいシクロアルキルまたはシクロアルキルアルキルを表し、

R^7 及び R^8 は相互に独立して水素、アルキル、アルコキシ、アルケニル、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルケニル、各々の場合に随時

置換されていてもよいアリールまたはアリールアルキル、或いは各々の場合に随時置換されていてもよいシクロアルキルまたはシクロアルキルアルキルを表すか、或いは $-OR^6$ または $-NR^5R^6$ を表し、ここに

R^5 及び R^6 は上記の意味を有するか、或いは

R^7 及び R^8 は一緒になって随時酸素原子を含んでいてもよい5員または6員のアルキレン鎖を表し、

R^9 及び R^{10} は相互に独立してアルキルを表し、

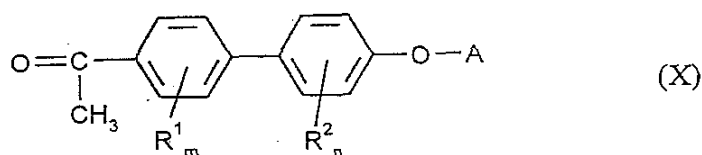
R^{11} は $-OR^6$ 、 $-NR^5R^6$ または $-N(R^5)-COOR^6$ を表し、ここに

R^5 及び R^6 は上記の意味を有し、そして

R^{12} 、 R^{13} 及び R^{14} は相互に独立してアルキルを表す、

の化合物。

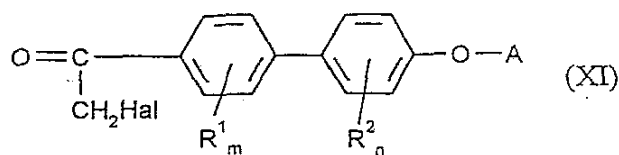
2. 式 (X)



式中、A、 R^1 、 R^2 、m及びnは請求の範囲第1項記載の意味を有する、

の化合物。

3. 式 (XI)

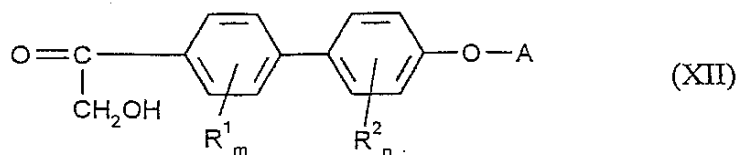


式中、A、 R^1 、 R^2 、m及びnは請求の範囲第1項記載の意味を有

し、そして

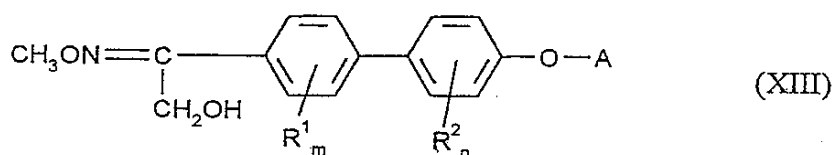
Ha 1 は塩素または臭素を表す、
の化合物。

4. 式 (XII)



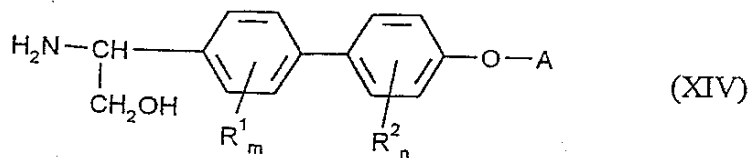
式中、A、R¹、R²、m及びnは請求の範囲第1項記載の意味を有する、
の化合物。

5. 式 (XIII)



式中、A、R¹、R²、m及びnは請求の範囲第1項記載の意味を有する、
の化合物。

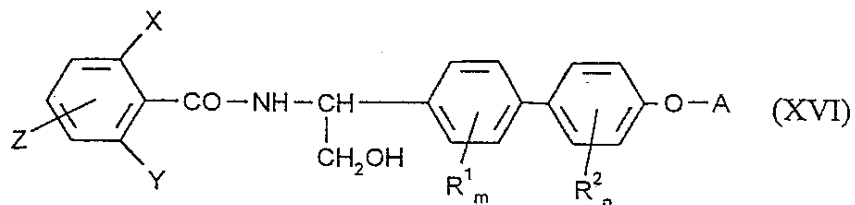
6. 式 (XIV)



式中、A、R¹、R²、m及びnは請求の範囲第1項記載の意味を有

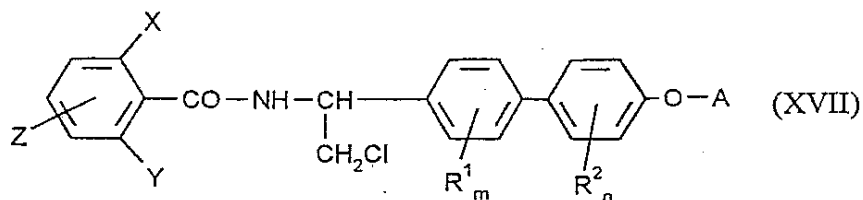
する、
の化合物。

7. 式 (XVI)



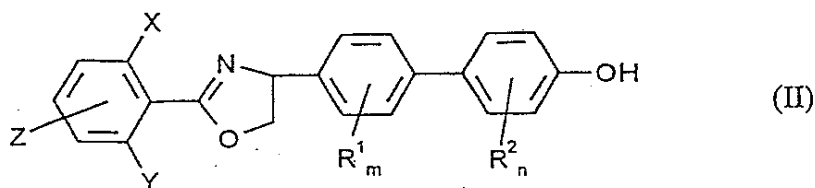
式中、A、R¹、R²、m、n、X、Y及びZは請求の範囲第1項記載の意味を有する、
の化合物。

8. 式 (XVII)



式中、A、R¹、R²、m、n、X、Y及びZは請求の範囲第1項記載の意味を有する、
の化合物。

9. 式 (II)



式中、X、Y、Z、R¹、R²、m及びnは請求の範囲第1項記載の

意味を有する、
のヒドロキシビフェニルオキサゾリンを、適当ならば塩基及び／または
触媒の存在下並びに適当ならば希釈剤の存在下で

M-A (I I I)

式中、Aは請求の範囲第1項記載の意味を有し、そして

Mは脱離基を表す、

の化合物と反応させることを特徴とする請求の範囲第1項記載の式(I)
の化合物の製造方法。

10. 請求の範囲第1項記載の式(I)の化合物の少なくとも1種を含む
ことを特徴とする有害生物防除組成物。

11. 請求の範囲第1項記載の式(I)の化合物を有害生物及び／または
はその環境に作用させることを特徴とする有害生物の防除方法。